

10月9日 AM6:30 松本を出発。AM7:30 沢渡で総勢17名となり、4台のタクシーで上高地へ向かう。天候は雨模様。新釜トンネルを抜け、シラカバ林の車道を廻る。大正池はどんよりと漂い、穂高岳は厚い雲に覆われている。バスターミナルの広場で全員雨具を着て、AM8:30 出発する。雨の森林帯の中、明神、そして徳沢を通り過ぎ、梓川畔から雨に煙る対岸の前穂高岳を眺めながら歩き進み、AM11:50 横尾に到着する。



雨の森林帯の中を行く



雨に煙る前穂高岳



紅葉したナナカマドの低木帯を進む

雨の横尾で昼食後 PM12:30 出発。河原を30分程歩き、左手に霞む屏風岩を仰ぎながら。PM1:30、沢が合流する本谷に到着。小休止後、急坂の岩道を1時間も登ると、鮮やかに紅葉したナナカマドの低木帯が広がり、霧に霞む穂高の岩峰が間近に迫ってくる。広いテント場を通り抜けて PM3:30 涸沢小屋に到着、泊する。用意してくれた熱風バーナーで衣類等を乾かし、夕食後、雨天を見上げながら、明日を期待して就寝する。



紅葉した涸沢を行く



色づく涸沢カールと前穂高岳



枯れた草地をジグザグに登る

10月10日霧雨、AM7:30 北穂高岳山頂を目指し登攀を開始。小屋からいきなり急坂のガラ場を直登し、岩礫帯の枯れた草地をジグザグに1時間程登ると、霧が上がり始め、時折日差しが峰々を明るく照らし出す。振り返ると、遙か眼下に色づく涸沢カールが望まれ、見上げる前穂高岳の先峰群が霧雲を吹き飛ばしている。



岩壁を鎖を頼りに登る



岩尾根上部に登る



北穂高岳 3106mに登頂

高さ60m程の岩壁を、鎖を頼りに登り切ると、急峻な岩尾根が1時間程続く。岩尾根上に設営されたテント場を通り抜け、涸沢岳への分岐を左に見て、穂高岳主稜線の岩場を北へ、トラバース気味に登ると AM10:30 北穂高岳山頂 3106mに到達する。「バンザイ、おめでとう！」全員笑顔で握手を交わし合う。

山頂は霧雲が覆い、視界が全く効かない。早めの昼食を摂りながら、展望を待つが諦めて、AM11:45 下山を始める。慎重に岩場を降り続け、PM2:30 涸沢小屋へ無事帰還、泊する。日が暮れると、テント場に幾十ものあかりが灯り、冷え込みが始まった夜空には一つ、二つと星が瞬き始めた。明日の天気を期待する。

10月11日快晴の朝を迎える。AM5:50 朝陽が昇り、徐々に穂高の峰々を茜色に染めていく。AM7:15、涸沢小屋に別れを告げて、下山を始める。涸沢カールの紅葉も明るい朝陽に照らされ、一層美しく彩りを増している。何度も振り返り、名残を惜しみながら下山を急ぐ。



南稜から望む前穂高北尾根 3090m



明るい朝陽に照らされ、紅葉の彩りが美しい涸沢と涸沢小屋

AM9:50 横尾、徳沢、明神を経て、PM12:40 上高地小梨に到着。小梨食堂で昼食をゆっくり摂り、PM1:30 バスターミナル食堂で熱いコーヒーを啜る。PM2:30 大混雑の上高地から、運良くタクシーに乗り込み、沢渡を経由して PM4:15 松本で最終解散とした。「紅葉に彩られた美しい涸沢カールと岩峰北穂高岳への迫力ある登頂感は、一生忘れられない思い出」となったことでしょう。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則